

クメール・ルージュ裁判関連文書センター(LDC)

2017年6月
在カンボジア
日本国大使館

クメール・ルージュ裁判関連の教育・研究リソース
司法関係者の能力構築に貢献

次世代への継承の場
被害者の声を伝えるセミナー・イベント開催等に活用

被害者への補償
民事当事者への集団的・道徳的損害賠償の位置付けを志向

豊富な映像リソース・ICTの活用
裁判の様子を視覚的に確認

概要

- ・ 2017年6月開所
- ・ カンボジア政府
閣僚評議会が運営
- ・ プノンペン都中心部
より車で約1時間



施設紹介

4階建のセンター内に、裁判文書保管庫、ライブラリー(裁判文書以外の関連文献を所蔵)、閲覧室、大小会議室、民事当事者室(民事当事者や弁護人が集まり、関連文書を参照可能)等を配置。

KR裁判文書(写し)の保管

適切な温湿度管理下で裁判文書のハード及びソフトコピーを保管。現在は第1事案の文書を保管済。第2事案結審後、同事案の文書が法廷より移送、保管される予定。ライブラリー内の文献と併せ、重要な教育・研究リソースを提供



日本の支援

・ ノン・プロジェクト無償資金協力の見返り資金(総額約240万米ドル)を活用し、建物(半分はカンボジア弁護士協会が使用)及び内部設備(文書保管用機材、サーバー、PC、タブレット等)を整備。

ICTの活用

LDC内のコンピューター、タブレットを使用し、裁判文書や法廷の映像に簡単にアクセス可能。豊富な映像リソースにより、裁判の様子を容易に確認。



司法補償プロジェクト

- ・ ECCCは被害者への損害賠償として集団的・道徳的な補償のみを認める。
- ・ 第2事案の審理中案件の補償として、様々なNGO・市民団体から23件のプロジェクトが提案されている。
- ・ LDCは上記23件のプロジェクトの内の1つ。

ECCCのレガシープロジェクト

会議室を用いて、法廷やクメール・ルージュ関連のセミナー・イベントを開催予定。大会議室は最大250名収容可能。同時通訳ブース・ヘッドセット、プロジェクターを完備し、様々なイベントに対応。



画像出典: LDC提供資料